

9 課

8月28日

休みのリズム



安息日午後 8月21日

暗唱聖句

神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終わって休まれたからである。(創世記2:3、口語訳)

この日に神はすべての創造の仕事から離れ、安息なされたので、第七の日を神は祝福し、聖別された。(創世記2:3、新共同訳)

今週の聖句

創世記1章、出エジプト記20:8~11、出エジプト記16:14~31、
申命記5:12~15、詩編92編、イザヤ58:13

今週のテーマ

だれが創造の^{みわざ}を想像できるでしょうか——闇の中に光が輝き、大海原が命で溢れ、突然鳥たちが空に舞う様子は、どんなだったことでしょうか。そして、自然を超えた方法で創造されたアダムとエバの誕生は……。私たちにはまるで想像が付きません。

しかし、神はすべての創造を終えられたとき、何かほかのものに注意を向けられました。一見したところ、それは海面に跳ね上がるクジラや、広げられた見事な鳥の羽のように壮観なものではありませんでした。神はただ1日を、つまり第七の日をつくり、その日を特別なものとされたのです。まだ人間が、自ら生み出したストレスに満ちた人生を走り出す前に、神はしるしとなる生きた記念日をつくられたのです。神は、私たちがこの日に立ち止まり、人生をゆっくり楽しむことを望まれました。すなわち、何かをする日ではなく、ただ自分であるための日、そして木々、空気、野生の生き物、水、人間を、そして何よりも、これらすべての良いものの創造主を祝う日とするように願われたのです。

この招きは、人類最初のカップルがエデンを追われた後も続くのでした。神はまぎれもなくこの招待が、その初めから、時を超えて時代を生き抜くしるしとなるようお望みになりました。ですから、神はこのしるしを、まさに時という布の中に織り込まれたのです。

今週、私たちは神の、7日ごとに何度も何度も訪れる生きた記念日へのすばらしい招待について学びます。

神は初めからそこにおられました。主なる神がお語りになると、そのようになりました。光が昼と夜を分け、2日目には天空、空、そして海があるように命じられ、3日目には乾いた土と植物が続きます。神はまず時間と地形の枠組みをおつくりになり、続く3日間でそれを満たされます。光はそれぞれ、昼と夜を治めます。多くの古代の神話とは異なり、聖書の天地創造は詳しく、はっきりと、太陽、月、星々は神ではないことを告げています。それらは創造の4日目のみに、創造主のみ言葉に従って登場します。

モーセによる5日目と6日目の描写（創1：20～31）は、生命と美に溢れています。鳥たち、魚たち、陸の動物たちが、彼らのために神が用意された空間を満たします。

問1 神の創造についての評価は、どのようなものでしたか（創1：1～31）。

これは神が創造された、ただの空間ではありませんでした。それは完璧な場所でした。地上は生き物で満ち溢れます。覚えやすいメロディーが繰り返されるように、神は繰り返し、日ごとにそれらを見て、「良しとされ」ます。

問2 人類の創造は、ほかの被造物のそれとはどのように違っていましたか（創1：26、27、2：7、21～24）。

神は身をかがめ、土をこね始められます。人類が神の御像に、神に似た者としてつくられたことは、神と人との親密で近い関係を示す実物教訓です。神は身をかがめてアダムの鼻に息を吹きこまれます。こうして人は生きた者となります。アダムのあばら骨からエバが特別につくられたことは、創造週のもう一つの重要な要素です。結婚は、神がお定めになった人類のための計画の一部です。それは、男（イシュ）と女（イシャー）の間の聖なる信頼関係を意味します。

神が6日目に創造されたすべてのものをご覧になったとき、その日の終わりに繰り返されてきたみ言葉は違ったものでした。「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」（創1：31、強調付加）。

聖書の創造の記述と、神の導きなしに人間がつくり出した寓話との間には、どれほどの根本的な違いがあるでしょうか。このことを考えるとき、私たちが真理を理解する上で、どれほど神のみ言葉に頼る必要があるでしょうか。

創造の御業は「極めて良かった」のですが、まだ完成してはいませんでした。創造は、神の休みと第七日安息日を特別に祝福することによって、完結するのです。「この日に神は御自分の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された」(創2:3)。

安息日は神の創造の一部です。事実、安息日は創造の頂点に位置するものです。神は休みをお定めになり、神の共同体としての人類が(このときはアダムとエバが家族の中心でしたが)、日々の仕事をやめ、彼らの造り主と並んで共に休むことができる時間を創造されたのです。

不幸にしてこの世に罪が入り、すべてが変わってしまいました。神との直接の交わりは、もうできなくなりました。代わって、産みの苦しみ、厳しい仕事、壊れやすい機能不全に陥った関係、すなわち人類すべてがよく知っている、この墮落した世界の悲痛がうんざりするほど繰り返されてきたのです。しかしなお、これらすべての中で、神の安息日は、私たちの創造のしるし、そして希望であり、私たちの再創造の約束として耐え、なお生き残っているのです。もし人類が、罪の前に安息日を必要としていたとすれば、罪の後にはどれほど必要としていることでしょうか。

多くの年月を経て、神がご自分の民をエジプトの奴隷から解放されたとき、主はこの特別な日を再度彼らに思い出させられます。

問3 出エジプト記 20:8~11 を読んでください。この聖句は、創造と関連して安息日の重要性についてどのように教えていますか。

このご命令と同時に、神は私たちに、私たちの起源を思い出すように召しておられます。私たちは多くの人々が信じているような、冷たい、だれも知らない、見えない力による偶然の産物ではありません。そうではなく、私たちは神の御像に創造された存在なのです。私たちは、神との交わりを分かち合うように創造されたのです。イスラエルの民がほとんど価値のない奴隷のように扱われていたとしても、安息日ごとに、特別な方法で、彼らが本当はだれなのか、神ご自身の御像に似た者として造られた者であることを思い出すよう召されたのです。「安息日は創造のみわざの記念であるから、それはキリストの愛と力のしるしである」(『希望への光』810ページ、『各時代の希望』上巻361ページ)。

6日間の創造の教理がどれほど重要なものであるか考えてみましょう。結局のところ、神が、毎週例外なく、私たちの生活の7分の1を献げるようにお命じになったほど重要な教えがほかにあるでしょうか。この事実は、創世記に描かれている、私たちの真の起源を知ることの重大さについて、何を教えているでしょうか。

荒野での40年間の放浪の後、新しい世代が成長し、すでにエジプトの記憶はなく、あったとしてもおぼろげなものになっていました。彼らは、自分の親たちとは全く異なる経験をしていました。この新しい世代は、親世代の信仰の足りなさを繰り返し見てきました。そしてその結果、親たちが死んでもなお、彼らも荒野を放浪しなければならなかったのです。

彼らは、宿営の中心に聖所を持つという特権に恵まれ、幕屋の上に留まる、神のご臨在を示す雲を見ることができました。雲が動くとき、彼らは荷物をまとめ、雲に従って移動する時であることを知りました。この雲は、日中は日陰をつくり、夜は光と熱を提供しました。それは、彼らに対する神の変わらない愛と関心のしるしでした。

問4 個人的な安息日のしるしとして、彼らは何を与えられていましたか（出16：14～31）。

一般的な神学とは違い、この聖句は第七日安息日が、シナイで律法が授けられる前から守られていたことを証明しています。何が起きたのでしょうか。

この特別な食べ物は、創造主がその被造物を維持しておられる事実を日々思い出させるものでした。神は非常に具体的な方法で、彼らの必要に応えられました。太陽と共に食べ物が現れ、消えるという奇跡の毎日となりました。翌日まで蓄えておこうとすると、腐って臭くなりましたが、毎週金曜日には2倍与えられ、安息日に食べる分は奇跡的に新鮮なままでした。

イスラエルはすでに聖所の奉仕を行っており、すべての律法と規則は、レビ記と民数記に記録されていました。モーセは年老いていましたが、まだ生きており、人々に彼らの歴史を語り、神がお与えになった律法を繰り返し教えました（申5：6～22参照）。

この新しい世代は遂に、約束の地に入る用意を整えます。イスラエルは指導者の交代を経験しようとしており、老齢のモーセは、この世代が、自分たちがだれであり、自分たちの使命は何であるかを、その心にしっかりと刻みつけてほしいと思いました。彼らには、祖先の過ちを繰り返してほしくはありませんでした。ですからモーセは、神の律法を繰り返し語ったのです。こうして、この世代には、カナン征服を目前にして忘れることがないように、律法が繰り返し教えられたのです。

個人的な経験として、イエスの再臨は、私たちが死んで次に目覚めた瞬間です。その時はすぐそこで、おそらく私たちが考えている以上に近いのです。そう考えると、安息日は、神が私たちのために何をしてくださったかを思い出させるだけでなく、再臨の時に何をしてくださるかを忘れないためのしるしでもあるのです。

イスラエルは、ヨルダン川の東側に宿営していました。彼らはすでにバシヤンの王と、アモリ人の2人の王の領土を占領していました。この非常に重要な局面で、モーセは再度イスラエルを呼び集め、彼らに、シナイの契約は彼らの親たちだけのものではなく、彼らのものでもあることを思い出させます。彼はこうして、彼らのために再度十戒を語り聞かせます。

問5 出エジプト記20：8～11と申命記5：12～15を比較してください。それぞれの安息日の戒めの表現は、どのように異なりますか。

出エジプト記20：8では、安息日の戒めが「覚えて」（口語訳）という語で始まっていますが、申命記5：12では、「守って」（同）で始まっています（「覚える」という語は、もう少し後の15節に出てきます）。この申命記の節では、彼らがエジプトで奴隷だったことを思い起こすように命じられているのです。この世代は自由の身で育ちましたが、奇跡的な救出がなければ、全員奴隷として生まれていたことでしょう。安息日の戒めは、彼らに、天地創造において働かれた同じ神が、彼らの救出においても生きて働かれたことを思い出させるためのものでした。「あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない」（申5：15）。

この真理は、初めの世代がみじめな失敗を犯し、40年を経て二度目に約束の地の国境を前にした今、イスラエルが置かれたこの状況においても、ふさわしいものでした。彼らは、自分の父親たちがエジプトから逃れるときに無力であったのと同じように、この国を征服するにあたって無力でした。彼らには、主が伸ばされる「力ある御手と御腕」が必要でした。

安息日は新たな次元に入ろうとしていました。神は解放の神であるがゆえに、イスラエルは安息日を守らねばならないのです（申5：15）。

もちろん、創造は安息日の戒めからかけ離れてはいません。申命記5章では、イスラエルの解放が、安息日を守る理由として加えられていますが、ある意味、エジプトの地からのイスラエルの解放は、創世記の創造の物語同様、新たな創造の始まりだったのです。イスラエルは、解放された民として、神に新たに創造されるのです（イザ43：15参照）。

ですから、出エジプトは罪からの自由のシンボルであり、同時に救済なのです。私たちは安息日の中に、創造と救済（贖い）のしるしを見ることができます。ゆえに、非常に現実的な方法として、安息日は私たちに、私たちの創造主であり、贖い主であられるイエスを指し示すのです。

ヨハネ1：1～13を読んでください。これらの聖句は、私たちの創造主であり、贖い主であるイエスについて何を教えていますか。

神はご自分の民に、安息日を守るようにお命じになります。私たちは、殺してはならない、あるいは盗んではならないなどの戒めと同様に、安息日を覚えなさいと命じられています。しかし聖書は、具体的にどのように守らねばならないかについては触れていません。

問6 私たちは安息日を守るために、どのように環境を整えるべきでしょうか（詩編92編、イザ58：13参照）。

安息日を守ることは、創造と贖いを祝うことを意味します。その雰囲気は陰気なものではなく、主にある喜びと楽しみに満ちたものであるべきです。

安息日を覚えることは第七日に始まるものではありません。人類最初の安息日は、創造週の頂点でした。ですから私たちは、1週間を通して「安息日を覚え」、安息日が来たときに、週の働きを脇に置いて「聖とする」ことができるよう、あらかじめ計画するべきです。週の間心して準備し、特に備えの日である金曜日には（マコ15：42）、この特別な日への期待に胸をはずませて待つのです。

問7 レビ記19：3には、安息日を守る上で、どんな重要な点が示されていますか。

安息日を守ることには、私たちの家族や友人との関係を育む意味もあります。神は、家族全員のための交わりの時間を提供されましたが、そこには奴隷や家畜の休みさえも含まれています（出20：8～11参照）。安息日と家族は一つなのです。

休みと家族の時間は重要な原則ですが、安息日を守ることは、教会という家族が共に神への礼拝に心を向け、一つとなって参加することをも意味します。イエスは地上生涯の間、礼拝の集會に導かれ、参加されました（レビ23：3、ルカ4：16、ヘブ10：25参照）。

私たちの週の日常業務やリズムは慌ただしいものかもしれませんが、しかし私たちの心の奥深くには、真の安息日の休み、私たちの創造主との真の交わりを慕い求める思いがあります。すべての仕事をやめ、神との時間を過ごすために備え、私たちの関係を育むことを覚えるとき、私たちは神がお定めになったリズムと安息日の休みに入ります。

あなたは、安息日とそれを守ることによる祝福について、どんな経験をお持ちですか。この聖なる時をあるべき姿にするために、さらにどんなことができるでしょうか。

「神のみ手のわざを見て、人間が神を認めるようになるために、神は、ご自分の創造の力を記念するものを、人間にお与えになった。

……わたしたちは、清い休みの日には、他のどんな日にもまさって、神が自然の中に書かれた使命を学ばなければならない。……自然のふとこころに近づけば近づくほど、キリストは、ご自分の臨在を明らかにわたしたちに示して、平和と愛の言葉をお語りになるのである」（『希望への光』1196ページ、『キリストの実物教訓』8ページ）。

「なぜ主がイスラエルをエジプトの奴隷から救い出されたのか。その重要な理由の一つは、彼らが主の聖なる安息日を守るためであった……。モーセとアロンは、明白な意図をもって安息日の神性さについての教えを繰り返した。それはファラオが、『お前たちは彼ら〔イスラエルの人々〕に労働をやめさせようとするのか』（出5：5）と訴えたからである。これは、モーセとアロンがエジプトにおいて安息日の改革を始めたことを示している。

安息日の遵守は、彼らのエジプトの奴隷から解放の記念祭となるべきではなかった。しかしながら、創造の記念としてこれを遵守することは、安息日遵守を困難なものにしていたエジプトでの宗教的弾圧からの救済の喜ばしい記念をも含むものであった。同様に、彼らの奴隷からの救済は、永遠に彼らの心に、貧しい者たちや虐げられている者たち、父のない子らや、やもめたちに対する優しさという火を燃え立たせるのであった」（『永遠の過去から』巻末付録549ページ、英文）。

話し合いのための質問

- ① アドベンチストも含めてクリスチャンの中には、有神論的進化論を現実的な創造の説明であると考える者たちがいます。安息日は、有神論的進化論とセブンスデー・アドベンチストの教理が相容れないものであることをどのように示していますか。何十億年という年月を信奉する風潮の中で、特に、神のみ言葉が、最初の6日間の創造の後に安息日が聖とされたと明白に語っていることを踏まえ、私たちが第七日を聖く守る意義は何でしょうか。
- ② どの日であれ、週に1日休めば問題はないという主張に対して、あなたはどのように答えますか。あるいは、イエスが安息日の休みそのものであるから、どの日であれ、1日を休む必要はないとの主張についてはどのように答えますか。
- ③ 安息日を守ることは、どうすれば自由と解放のしるしとなるでしょうか。私たちはどのようにして、ただ行動を制限する律法主義的な遵守を避けることができるでしょうか。
- ④ 第七日安息日を守ることは、天国に行くための努力だと主張する人たちがいます。しかしながら、第七日に休むことが、天国に行くための努力になると考える論拠は何でしょうか。

笑顔の力ラウカ（デール・ウォルコット）

チンリ・セブンスデー・アドベンチスト教会は、アメリカ・アリゾナ州のナバホ族保留地の中で、最善の場所に建っているわけではありません。

牧師として、私は教会の隣にあるトレーラーハウスに住んでおり、ナバホ国家警察官を含めた、数人の尊敬されている隣人が、トレーラーハウスのそばに住んでいます。しかし1軒の家は、地元の「麻薬ハウス」として軽蔑されているのです。その荒れ果てた庭と、絶え間ない乱雑な靴の跡は、確かに、非合法的な酒などの供給元であるとの噂が真実であることを証明しています。

教会の理事会は、これらの隣人たちとどのように関わったらよいか、議論しました。私たちは、彼らのために祈り、訪問し、彼らと共に祈り、トラクトを配り、教会のイベントに招待もしました。その家族の子どもたちは、時折、教会のプログラムに出席していました。しかし、これまで突破口を見いだせませんでした。

やがてコロナのパンデミックが発生しました。教会は閉鎖され、集会は電話で行われるようになりました。教会ではインターネットが使えますが、多くの家庭にはインターネット環境が整っていません。

ある日、キャサリンが笑顔で教会にやって来ました。彼女は週半ばの電話祈祷会に欠席したことを謝りに来たのでした。彼女は夫と2人の娘、ケイトリン（11歳）、ケイリー（9歳）と一緒に、小川のほとりで夕礼拝を行っていたとのことでした。

「そうだ。隣人の子どもたちも一緒に行ったんですよ」と、彼女が言いました。

「どの家の子ども？」と尋ねると、「教会の隣の家ですよ」と、あの「ハウス」を指さしたのです。驚いた私は、どうやって子どもたちを招いたのか尋ねました。

「あの家の長女が、私の娘たちが宿題をするために教会へ行くのを見て、なんて幸せそうなんだろう、と気づいたのです」と、彼女は言いました。

キャサリンの娘たちは、ホルブルック・セブンスデー・アドベンチスト・インディアン学校で寮生活をしていたのですが、コロナのために帰省していました。家にインターネットがなかったので、教会で勉強していたのです。



「その長女は、自分の妹たちはいつも悲しそうなのに、なぜ私の娘たちがいつも笑顔でいるのか、なぜいつも歌を歌っているのか、知りたいと思ったらしいのです。そこで、私たちは彼女たちを夕礼拝に招きました。礼拝が終わると、明日も同じことをしてくださいませんか、とお願いされました。娘たちは、主に用いられたのです。そして、その結果を今見ているのです」と、キャサリンは言いました。